

各支店管内で料理講習会を開く

生活課

生活課では、各支店管内の地域住民を対象とした料理講習会を8月21日、22日に開きました。

このうち、二ツ井公民館で行われた料理講習会には地域住民約20人が参加。大興産業株式会社の藤井課長とAコープ東北の草薙調査役が講師となり、Aコープの酢を使った「ナスの棒ずし」や「ゴーヤの漬けもの酢和え」など4品を作りました。参加者らは4グループに分かれて手際よく料理を作っていました。試食会では「すっぱいかなと思ったけど全く気に入らないでおいしく食べることができた」といった感想が聞かれ、楽しくおいしく料理を学ぶことができました。



▲協力して調理をする参加者



▲多くの意見・要望が出されました

地域農業の将来像を策定し実施する

営農企画課

地域農業のこれからをどのように描いていくかを生産者と協議するため、JAでは8月17日から各地区において地域営農ビジョン検討会を開きました。

このうち、東雲地域では農業生産の拡大と所得の増大に向けて、担い手のみならず兼業農家等多様な農業者の意欲喚起をし、地域の特性を活かした複合経営を進め、産地づくりと担い手づくりを進めるなどの案が出されました。JAでは、今回の検討会で出された意見などをもとに今後も検討を重ね、より効率的で収益性の高い農業への取り組み策を盛りこんだ地域営農ビジョンを完成させ、行政等と連携し地域農業を支えていきます。

高校球児がメガ団地で草取り作業

営農企画課

園芸メガ団地で8月8日、能代市内で合宿を行っていた埼玉県浦和麗明高と福島県の学法石川高野球部が白神ねぎの管理作業を体験しました。

この活動は各高校の地域貢献活動の一環として行われ、部員らは軍手をはめて作業に取り組みました。午前中は浦和麗明高の44人が(農)能代グリーンファーム常盤の圃場で草取りを行いました。今井元気主将は「ねぎ畑に入ったのは初めてで、根もとの雑草を取るのが大変だったけど、畑がきれいになってよかったです」と話してくれました。また、午後からは学法石川高の37人が佐々木征彦さんの圃場で作業を行いました。



▲草取り作業をする浦和麗明高の選手ら



▲安全作業に向け意識を高めました

稲刈り作業等の無事終了を願う

企画管理課

秋作業を間近に控え、安全に対する意識を高めることや作業を円滑に進めることを目的とした、作業安全管理研修会を8月30日に開き、農業関連施設に関わる職員など約20人が参加しました。

研修会では、労働安全コンサルタントの関雅幸氏を講師に招き、秋田県の労働災害発生状況や発生原因の説明、はい作業やフォークリフトなどの労働災害の防止対策等について説明しました。また、作業中のけがの防止、疲れを軽減するためのストレッチを参加者全員で行ったほか、指差し呼称の重要性も説明され参加者は秋作業の無事終了を願い意思統一を図りました。